

II 市町事業

平成30年度 学校・家庭・地域連携推進事業 実施市町一覧(松山市を除く)

教育支援活動 市町名		地域学校協働活動 (学校支援活動)		えひめ未来塾		放課後 子ども教室		土曜教育活動		家庭教育支援	
		実施	箇所数	実施	箇所数	実施	箇所数	実施	箇所数	実施	チーム数
1	四国中央市	○	13	○	1	○	4			○	1
2	新居浜市	○	15	○	11	○	15	○	1		
3	西条市	○	35	○	9	○	24	○	6	○	
4	今治市					○	2			○	
5	上島町									○	
6	東温市					○	1	○	2		
7	伊予市					○	1			○	1
8	松前町					○	3				
9	砥部町					○	3			○	1
10	久万高原町	○	3			○	1			○	1
11	大洲市	○	1			○	5			○	1
12	内子町					○	3				
13	伊方町	○	2								
14	西予市			○	5	○	3	○	1	○	1
15	宇和島市	○	2	○	29	○	12			○	1
16	鬼北町	○	7			○	3				
17	愛南町					○	3	○	1	○	1
合 計		8	78	5	55	15	83	5	11	11	8

各市町の教育支援活動における人数や日数等の数値は、平成31年3月末までの見込みです。

地域学校協働活動 (学校支援活動)



美川少年太鼓の披露
(久万高原町 美川小地域学校協働本部)

①【四国中央市】	三島南中学校地域学校協働本部	16
②【新居浜市】	浮島校区学校支援地域本部	17
③【西条市】	西条市地域学校協働本部	18
④【久万高原町】	美川小学校地域学校協働本部	19
⑤【大洲市】	平野小・中学校地域学校協働活動本部	20
⑥【伊方町】	三崎小学校地域協働活動本部	21
⑦【宇和島市】	吉田中学校地域学校協働本部	22
⑧【鬼北町】	愛治小学校地域学校協働本部	23

三島南中学校地域学校協働本部【四国中央市】

～地域の力を子どもたちの成長のために～

◆活動の目的・理念

- 安全・安心な地域づくりと青少年の健全育成を推進する。
- 地域を知り、地域を愛し、地域に生きる生徒の育成に努める。

地域コーディネーター	配置		属性		活動内容					
	1	名	教頭		・学校・地域・公民館の年間行事との調整及び支援活動の計画 ・学校支援ボランティアへの連絡と調整 ・広報・啓発活動(学校だより、ホームページ)					
協働活動支援員のべ人数	31	人	南中を語る会、豊岡公民館長、寒川公民館長、PTA役員							
協力活動の内容	授業等の補助	学びによるまちづくり	地域課題解決	地域人材育成	郷土学習	部活動補助	見守り活動	その他		
のべ日数	77	日	14	日	9	日	40	日	14	日
ボランティアのべ人数	467	人	290	人	27	人	60	人	90	人
連携・協力団体・機関	南中を語る会、寒川公民館、豊岡公民館、四国中央市社会福祉協議会、愛媛県紙パルプ工業会、やまじ風対策協議会									

取組の概要

<主な取組内容>

● 心を豊かにする環境整備

- ・PTA親子奉仕活動で「南中を語る会」が中心となり、樹木の剪定を行う。保護者の参加率も5割を超え、充実した活動になっている。また、奉仕活動以外にも、定期的に学校内外の除草作業を行う。
- ・年3回(学期に1回)生徒・保護者で資源回収を行う。

● 地域全体で取り組む見守り活動

- ・夏・秋祭りにはPTA健全育成部と寒川・豊岡両地区の補導委員会と連携して、見守り活動を行う。
- ・保護者・校区内の自主防災組織等の協力を得て、南海トラフ巨大地震を想定した小・中合同避難訓練を実施した。

● 伝統文化の継承活動

- ・昭和37年から続く、やまじ風の観測活動。毎日の気象観測と年1回研修会を実施している。
- ・愛媛県紙パルプ工業会を中心に地域の企業と連携し、1年生で「紙産業を学ぼう」をテーマに、ものづくり体験講座を実施した。

生徒の感想

- ・水に溶ける紙、水に溶けない紙など紙には様々な種類があり、紙は研究・開発され続け、無限の可能性があることが分かりました。



(小・中合同避難訓練)



(ものづくり体験講座:水引細工)

<特色ある取組>

● 芝生広場の管理

地域内の各種団体が協力して、子育て環境を整備することにより、子どもたちの体力向上や地域住民の交流促進を図ることを目的に、平成26年に中庭が芝生化された。水やりや芝刈り、施肥等の管理をPTA施設部が中心となり、南中を語る会・豊岡公民館と連携しながら、月2～3回のペースで芝生の管理を行っている。この芝生広場は、放課後の部活動で活用され、子どもたちの体力向上に役立つとともに、毎年9月には、三島南幼稚園の園児を招待し、吹奏楽部のミニコンサートを開催し交流を図っている。



(芝生広場の芝刈り作業)

事業を実施して

【成果】

- 学校支援ボランティア活動で学習環境の整備や、教育活動の充実に役立っている。
- 様々な場面で地域の方と生徒が関わることで、しっかりと挨拶ができる生徒が増え、地域や学校に誇りと愛着をもつ生徒が増えた。

【課題】

- 参加者の固定化の解消のための協力体制づくり。
- 1、2年生を対象とした読み聞かせ活動を実施するなど支援ボランティアの方と生徒が直接関わる活動を更に充実させる。

浮島校区学校支援地域本部【新居浜市】

～地域の力で子どもを守り育てよう～

◆活動の目的・理念

- まもる君パトロール隊は見守りだけではなく、学校行事等にも参加し、子どもたちとのふれあいを深める。
- 地域住人も参加して、子どもたちの活躍を見守る花いっぱい運動や標語看板作りに取り組む。
- 伝統行事を子どもたちと一緒に行うことで、次世代に引き継いでいく。

地域コーディネーター	配置	属性	活動内容					
	1名	公民館主事	・学校・地域・公民館の年間行事との調整及び支援活動の計画 ・学校支援ボランティアへの連絡と調整 ・広報・啓発活動(公民館報・学校だより・人材発掘)					
協働活動支援員のべ人数	人							
協力活動の内容	授業等の補助	学びによるまちづくり	地域課題解決	地域人材育成	郷土学習	部活動補助	見守り活動	その他
のべ日数 217日	日	日	日	日	12日	日	195日	10日
ボランティアのべ人数 1,666人	人	人	人	人	61人	人	1,560人	45人
連携・協力団体・機関	まもる君パトロール隊・浮島連合自治会・社会福祉協議会浮島支部・浮島校区民生児童委員協議会・浮島公民館							

取組の概要

<主な取組内容>

● 子どもを見守る「まもる君パトロール隊」

小規模校のよさを生かし、登校時・低学年の下校時間・高学年の下校時間に合わせて、雨の日、暑い日、寒い日に関わらず、子どもたちと楽しくおしゃべりしながら自宅近くまで見守りを行っている。学校行事にも参加している。(校内音楽会・ふれあい給食・校区探検・卒業式等)

● 標語看板

挨拶標語を全校生徒から募集して選考委員会で20数点を選び校区内や学校に標語看板を設置する。

夏前には全校生徒で海岸清掃を行い海岸美化の標語看板を海岸沿いに設置する。

● 伝統行事

秋に稲を調達し丁寧にシブ取りをして整え5・6年生にしめ縄作りを指導する。材料を調達し、学校に門松やしめ縄を設置し、子どもたちの質問等を受ける。



(まもる君は雨の日も寒い日も)



(学校行事(お茶会・卒業式)にも参加)

児童の感想

- ・まもる君に家の近くまで話をしながら送ってもらっています。
- ・芝桜がきれいに咲いてうれしかったです。
- ・しめ縄作りは、むずかしかったけど家にかざります。

<特色ある取組>

● 芝桜植付け

小学校の校庭に学校と相談の上、芝桜の植床を作り、各学年ごとに植付けを体験する。1年生は、はじめは、おどおどしながら土を触り、地域の方の指導を受けて植付けを経験するが、さすがに6年生はちゃんと根をさばきながら上手に植付けが出来ている。

地域の方には「まもる君パトロール隊」の方も多く、子どもたちの名前を呼びながら植付け方を指導して下さるので低学年の子どもたちも楽しそうにしている。11月末に植え付けた芝桜は、学校の校務員さんの協力もあって、立派に育ち、春には新入生たちを出迎えてくれている。毎年、どこに植え付けるかが楽しみになってきている。



(芝桜の植付け)



(春の芝桜は新入生を歓迎)

事業を実施して

【成果】

- 地域と学校(子どもたち)との交流が、今まで以上に充実している。
- 先生方と地域の方たちとの交流も増えてきた。

【課題】

- 地域を取り巻く状況が、他校区とは異なる小規模校区のため、思わぬ事態に遭遇することがある。
- 後継者不足が課題である。

西条市地域学校協働本部【西条市】

～部活動をサポートする外部指導員の活用～

◆活動の目的・理念

- 文部科学省「学校を核とした地域力強化プラン」の方針に基づき、学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働を推進するため、地域住民等の参画を図ることにより、学校を様々な角度からサポートする事業を展開する。
- 地域住民の参画を進める事業の一環として、地域のスポーツ経験者等に外部指導員として、部活動の支援を依頼することで、競技力の向上のみならず、教職員の負担軽減を図る。

	配置	属性	活動内容					
地域コーディネーター	1 名	市職員	・学校と教育活動推進員等への連絡と調整、支援活動の計画 ・広報・啓発活動(市広報紙)					
協働活動支援員のべ人数	35 人	地域住民						
協力活動の内容	授業等の補助	学びによるまちづくり	地域課題解決	地域人材育成	郷土学習	部活動補助	見守り活動	その他
のべ日数 9,314 日	1,344 日	日	日	日	日	1,320 日	6,650 日	日
ボランティアのべ人数 222,205 人	人	人	人	人	人	人	222,205 人	人
連携・協力団体・機関	株式会社ベネッセコーポレーション、通学路安全確保ボランティア							

取組の概要

<主な取組内容>

部活動の技術面における指導(部活動補助)

● 部活動の外部指導員の役割について

学校で承認された該当する部活動の活動時間内に、部活動顧問と連携し、主に生徒の技術指導を依頼している。



(活動の様子:卓球部)



(活動の様子:剣道部)

生徒の感想

- ・技術指導を丁寧にしてくれるので分かりやすいです。
- ・剣道に関するすべてのことをよく知っていて、僕たちも大変役立っています。ずっと来ていただいて、もっともっと指導していただきたいです。
- ・サーブなど実際に手本を見せた後、正しいフォームが身に付くまで球出しをしていただいています。自分の課題について詳しく説明していただいているので、目標をもって練習に取り組んでいます。
- ・アドバイスをしてくださり、レベルの高い指導を受けられるのでうれしいです。

教職員の感想

- ・いろいろな面で大変助かっています。剣道に関する専門的な技術指導はもちろんのこと、礼儀やマナーについても、充実した指導を行ってくれています。
- ・礼儀なども厳しく指導してくださり、生徒も信頼して指導を仰いでいます。
- ・技術面は、もちろん生活面でも指導していただいています。また、常に協力的な姿勢で関わっていただき非常にありがたいです。



(活動の様子:バレーボール部)

<取組の様子>

● 地域との相互連携

学校から、地域の競技経験者をお願いしたり、地域の方から指導の申し入れがあったりするなど、相互の連携が行われており、地域との結び付きを大切にしている。



(活動の様子:剣道部) (活動の様子:バレーボール部) (活動の様子:剣道部)

事業を実施して

【成果】

- 教員の負担軽減。
- 生徒・教員の双方へ向けた指導が可能となる。
- 生徒にとって指導員(異世代)との交流の場にもなる。

【課題】

- 地域によっては、競技や活動の経験者が限られ、人材の確保が困難な場合がある。
- 技術指導と教育的な指導を両立させるうえで、より部活動顧問との連携が重要となる。

美川小学校地域学校協働本部【久万高原町】

～地域と共に、子どもの自己肯定感・ふるさとを愛する心を育てる～

◆活動の目的・理念

- 学校・家庭・地域が協働し、地域が心をつなげて子どもの健やかな育成を目指す。
- 美川だからこそできる体験、特色ある教育によって、人が集い、にぎわいのある学校・地域をつくる。
- 子どもたちが地域の方との交流を通して、コミュニケーション能力や人間関係づくりを学ぶ。

地域コーディネーター	配置		属性		活動内容				
	2	名	PTA副会長		<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域及びボランティアとの連絡調整を図る。 ・環境整備・地域支援活動等への参加を呼びかける。 				
協働活動支援員のべ人数	40		人		公民館長・主事、敬老会、婦人会、民生児童委員、食生活改善グループ等				
協力活動の内容	授業等の補助	学びによるまちづくり	地域課題解決	地域人材育成	郷土学習	部活動補助	見守り活動	その他	
のべ日数 235 日	25 日	日	3 日	日	7 日	日	198 日	2 日	
ボランティアのべ人数 1,191 人	85 人	人	43 人	人	38 人	人	1000 人	25 人	
連携・協力団体・機関	公民館(4)、社会福祉協議会、防犯協会老人クラブ								

取組の概要

<主な取組内容>

● ふるさとを愛する子どもを育む教育活動

地域に根差した食材を食したり地域にある遺跡を取材したりするなど体験学習の場を設けている。また、地域の文化の継承や伝統を受け継いでいく活動に力を入れている。地域の方による指導で、児童の学びが豊かになっている。

- ・郷土料理作り「美川マルシェ」(学校で育てた里芋による収穫祭、こんにゃく作り体験と会食による地域との交流)
- ・上黒岩遺跡を中心とした地域体験学習
- ・美川少年太鼓や獅子舞、万歳、箏の体験
- ・しめ縄作り、もちつき体験



(郷土料理作り「美川マルシェ」)

● 心を豊かにする環境整備

6月の参観日と運動会前には、地域や保護者の方の協力を得て、学校の環境整備を行っている。(ツツジ園のせん定、除草、プール清掃など)

また、緑の少年団活動として国道33号線のバス停の除草、花いっぱい運動を定期的に行っている。

● 地域の課題に取り組む教育活動

地域の高齢化が進む中で、地域の一員として何ができるか考え、実践する活動を社会福祉協議会と連携して取り組み、学びを広げている。

- ・デイサービスに通う高齢者との交流(社会福祉協議会への訪問)
- ・出前講座(高齢者疑似体験・認知症サポーター講座、盲導犬キャラバン)



(美川少年太鼓の披露)

<特色ある取組>

● 美川小学校・公民館合同運動会

毎年、小学校・幼稚園、校区の4つの公民館が合同で運動会を行っている。地域の様々な年齢層の方が参加して、競技を楽しんでいる。運営面では、公民館主事やスポーツ指導員、中学生などが積極的に参加し、地域の運動会として小学校を盛り上げている。

● 茶摘み・茶煎り・茶揉み

茶所「美川」の特性を生かし、地域の茶畑で地域の方に教えていただきながら、「茶摘み」「茶煎り」「茶揉み」を行っている。本年度は、地域の製茶工場を見学し、手もみとの違いや地域の産業について理解を深めた。



(小学校・公民館合同運動会)

事業を実施して

【成果】

- 学校が小規模化する中で、地域全体で子どもを支えるという意識が高まりつつある。
- 地域での学び、地域の方との交流を通じて、ふるさとを愛する心を育むことができた。

【課題】

- この活動が学校だけではなく、地域にとっても価値ある事業になるようにコーディネーターを通じた連携が求められる。
- 地域人材の発掘と活動への理解と啓発が必要である。

平野小・中学校地域学校協働活動本部【大洲市】

～ふるさと平野を愛する子どもたちを、地域で育てよう～

◆活動の目的・理念

- 「ふるさと学習」を軸とし、系統性を重視した小中一貫教育を支援していく。
- 義務教育9年間を連続した期間ととらえ、発達段階に応じた一貫性のある指導の支援を行う。
- 学校、家庭、地域が今まで以上に連携・協働し、地域住民等の幅広い参画により、子どもたちの成長を支える。

	配置	属性	活動内容						
地域コーディネーター	1名	元PTA会長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域、公民館の年間行事との調整及び支援活動の計画 ・学校支援ボランティアへの連絡と調整 ・広報、啓発活動(ふるさと学習通信「いころの里通信」発行) 						
協働活動支援員のべ人数	100人	公民館・分館、自治会、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、交通安全協議会、児童生徒を守り育てる協議会、老人会(鶴寿会)、まちおこしグループ(煙友会等)							
協力活動の内容	授業等の補助	学びによるまちづくり	地域課題解決	地域人材育成	郷土学習	部活動補助	見守り活動	その他	
のべ日数	108日	2日	3日	12日	日	25日	日	25日	41日
ボランティアのべ人数	405人	3人	12人	27人	人	120人	人	196人	47人
連携・協力団体・機関	平野公民館、平野自治会、平地上分館、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、平野交通安全協議会、児童生徒を守り育てる協議会、老人会(鶴寿会)、煙友会、JA平野支所、平野駐在所、平野郵便局、JR平野駅、谷本建設工業等								

取組の概要

<主な取組内容>

- ふるさとを愛する子どもを育む郷土学習の支援
 - ・発達段階に応じた「ふるさと学習」(郷土の歴史や自然・文化・産業)の支援(中学生・・・徳馬田の米作り、地元サロンとの交流、ほたるプロジェクト等)
 - (小学生・・・平地上分館での田植え・稲刈り・餅つき、戦争体験講話、ほたるまつりプロジェクト、うどん作り、炭焼き体験、地元企業訪問等)
 - ・小中学校の教員による乗り入れ指導(T・T)の支援
 - ・異年齢での学びを深めるための、園児・児童・生徒が合同で行う活動の支援(花いっぱい運動・クリーン運動・ふれあいタイム・ウェルカムデー)
- 心を豊かにする環境整備
 - ・花いっぱい運動(春・秋) ・クリーン運動(カーブミラー・ガードレール磨き)
 - ・夏季休業中の親子奉仕活動(校内環境整備)
- 地域全体で取り組む見守り活動
 - ・交通安全教室 ・PTA登校指導 ・救命救急講習 ・プール監視等



(徳馬田の米作り)



(うどん作り体験)



(地元企業訪問)

児童の感想(地元企業訪問)

・「自分たちの製品が売られているのを見た時、やってよかったと思う」というお話を聞いて、ぼくも大人になったらこの会社で働いてみたいという気持ちになりました。

<特色ある取組>

● 小中連携のほたるプロジェクト

まずは小学生が地元の「ほたるまつり」についてお話を聞き、自分たちに手伝えることはないかと、ポスター作りやゴミ箱作り、餅まき用の餅作りの手伝い、中学校へ出向いて給食時の放送でPR活動等をした。その活動で、ほたるが減っていることを何とかできないかと、中学生が地域の方や教員にアドバイスを受けながら養殖にチャレンジした。卵の孵化には成功したものの、育てることはできなかったが、来年もチャレンジしたいと意気込んでいる。



(小中連携のほたるプロジェクト)

事業を実施して

【成果】

- 子どもたちは自分たちが住んでいる地域の良さを再認識し、地域の中で自分たちができることは何かを考え、行動できるようになった。
- 小中連携しての活動ができ、こんなことがしてみたいという意欲的な意見もあり、新たな活動も増えてきている。

【課題】

- 地域ボランティアの高齢化で、活動を継続するための対策が必要になっている。
- ほたるプロジェクトでは、専門的な知識が必要になってくると思われる。

三崎小学校地域学校協働本部【伊方町】

～地域ぐるみで三崎の子どもを育てよう～

◆活動の目的・理念

- 学校・家庭・地域が手を取り合って、地域の宝である子どもたちを育てていく。
- 地域人材の活用を通して学校を支援するとともに地域の活性化を図る。

地域コーディネーター	配置		属性		活動内容				
	1	名	元教員		・学校支援ボランティアの派遣(人材確保及び連絡調整) ・広報・啓発活動 ・学校支援ボランティアの募集				
協働活動推進員のべ人数	人								
協力活動の内容	授業等の補助	学びによるまちづくり	地域課題解決	地域人材育成	郷土学習	部活動補助	見守り活動	その他	
のべ日数	38 日	4 日	日	日	2 日	日	22 日	10 日	
ボランティアのべ人数	95 人	19 人	人	人	3 人	人	44 人	29 人	
連携・協力団体・機関	三崎公民館、伊方町社会福祉協議会、伊方町老人クラブ連合会、町立図書館								

取組の概要

<主な取組内容>

- **学習支援への取組**
生活科や、総合的な学習の時間の体験活動支援、読み聞かせなどを実施。
- **登下校の安全確保**
子どもたちの登校時間に合わせて通学路に立ち、安全確保と声かけ運動を実施。
- **校内環境整備への協力**
樹木の消毒・剪定、運動場の草引きなどの実施。



(読み聞かせ)

児童の感想

- ・「きらきらぼしのたなばたさま」の本は、星が絵の中にかくれていて、見つけるのが楽しかったです。
- ・「おこだでませんように」のお話はおもしろかったです。最後にぎゅっとしてもらったところがよかったです。
- ・「やぶかのはなし」を読んでもらって、やぶかも一生けんめい生きているのだと知りました。
- ・「おさがり」という本を読んでもらって、新しい物がいいと思っていただけど、おさがりもいいなと思いました。ものを大切に使いたいとも思いました。

<特色ある取組>

- **三崎の伝統行事について**
三崎の伝統行事の中でも、特に「祭り」について話していただいた。三崎には昔から受け継がれている「伝統行事」がたくさんあることを知るとともに、同じ行事でも今と昔では少しずつ変わってきていることを教えていただいた時に、児童は一番興味を示していた。その後、この学習をもとに児童一人一人、祭りについて調べる課題を見つけ、調べたいことをまとめるとともに、三崎を大事に思う心が子どもたちにも引き継がれた。



(熱心に子どもたちのために)

事業を実施して

【成果】

- 地域の方々の力が、学校支援ボランティア活動を通して、学校教育活動の充実に役立っている。
- 学校を支援する活動を通して、ボランティアも学校や子どもたちとのつながりができ、地域ぐるみで子どもたちを育てるという意識が高まってきた。

【課題】

- 学校と地域の連携・協働体制づくりに取り組む。
- 学校支援ボランティア活動のさらなる充実を図るための工夫が必要である。
- 若い世代のボランティアを確保していく。

吉田中学校地域学校協働本部【宇和島市】

～地域の教育力向上を目指して～

◆活動の目的・理念

- 地域と学校をつなぎ、『地域とともにある学校』を実現する。
- 教職員の負担軽減を図る。

地域コーディネーター	配置	属性	活動内容					
	1名	元教員 元PTA会長	・学校支援ボランティアに関する学校とボランティアとの連絡調整 ・ボランティア活動に係る報告書の作成及び行政担当者との連絡調整 ・広報・啓発活動及び新規ボランティアの発掘					
協働活動支援員のべ人数	人							
協力活動の内容	授業等の補助	学びによるまちづくり	地域課題解決	地域人材育成	郷土学習	部活動補助	見守り活動	その他
のべ日数 87日	5日	日	2日	5日	日	日	日	75日
ボランティアのべ人数 2,525人	50人	人	300人	75人	人	人	人	2,100人
連携・協力団体・機関	公民館、婦人会、老人クラブ、自治会							

取組の概要

<主な取組内容>

● 学習支援

地域のボランティアによる、学教教育活動への支援を実施している。

● 環境整備活動

清掃活動等の環境整備は、少ない教職員では対応が困難なため、定期的にボランティアをお願いして、作業を行っている。



(通学路の清掃活動)

<特色ある取組>

● 感謝の気持ちをカタチに ～豪雨災害の経験から～

平成30年7月豪雨により、校舎の1階部分と体育館が浸水した。学校の教職員や生徒たちはもとより、協働本部においても、1日も早い復旧に向け、ボランティアとの諸調整に尽力した。

地域と一体となった取組の結果、自衛隊等の協力もあり、8月下旬に授業を再開することができた。生徒たちは、少しでも恩返しができればと、地域特産のみかんの収穫を手伝い、感謝の気持ちを表した。

また、生徒たちのメッセージが刻まれた記念碑が建てられた。当たり前の日常が理不尽に奪われた現実と、そこからは上がった軌跡を後世に伝えるため、協働本部も歩み続ける。



(みかんボランティア)

(「ピンチをチャンスに」
という言葉が印象的)



事業を実施して

【成果】

- 支援ボランティアの組織化による、継続的な支援活動の実現。
- 支援ボランティアが、学校現場に入ることによる、生徒・教職員と地域のつながりの強化。
- 社会貢献をしたという実感による支援ボランティアの喜びや充実感。

【課題】

- 本事業は平成28年度にスタートして3年目になる。コーディネーターの地道な広報活動等により、徐々にその取組が、地域に浸透しつつある。
- 今後は、新規ボランティアのさらなる発掘を目指すとともに、地域ぐるみでの活動を継続させるための工夫が必要。

愛治小学校地域学校協働本部【鬼北町】

～地域とともにある学校づくり～

◆活動の目的・理念

- 地域の自然や人とつながる交流学習の充実を、地域とともに推進する。
- 地域ぐるみでの児童健全育成活動の推進を、積極的に実践する。

地域コーディネーター	配置		属性		活動内容				
	1名		元学校事務職員			・学校行事・地域行事に対応した支援活動の計画 ・学校支援ボランティアへの連絡と調整 ・学校行事への参画と児童への積極的な社会体験支援			
協働活動支援員のべ人数	人								
協力活動の内容	授業等の補助	学びによるまちづくり	地域課題解決	地域人材育成	郷土学習	部活動補助	見守り活動	その他	
のべ日数 236日	15日	日	日	日	日	日	203日	18日	
ボランティアのべ人数 1,529人	148人	人	人	人	人	人	600人	781人	
連携・協力団体・機関	愛治公民館、愛治自治会、老人クラブ愛治支部、愛治活性化集団、愛治駐在連絡協議会、北宇和高校、日吉農林公社、鬼北町農林課、地方局産業振興課等								

取組の概要

<主な取組内容>

●子どもに寄り添う学習支援

- ・米作り
- ・こんにゃく栽培
- ・さつまいも栽培
- ・水質調査
- ・森林(木工)教室
- ・生活科、物づくり体験学習
- ・福祉学習
- ・キャリア教育学習
- ・北宇和高等学校との連携学習

●環境整備への協力

- ・運動会前や地区別奉仕活動

●地域全体で取り組む見守り活動

- ・登下校時の見守り活動

●学校行事への参画

- ・愛治地区大運動会・学芸会、ふれあいまつり
- ・愛治地区PTA研究集会

児童の感想

- ・総合的な学習の時間に、林業について学習しました。町有林について知ることができ、愛治地区の良さを再認識しました。林業の仕事の大変さについても考えました。
- ・年間を通して、米作りや、さつまいも・こんにゃく栽培を行いました。植物を育てる喜びを実感しました。



(森林教室:日吉農林公社)



(こんにゃく作り体験:町農林課等)

<特色ある取組>

●愛治の自然を再発見しよう

- ・清らかな愛治の川に住む生き物を発見し、きれいな川の実態を探る水質調査を行う。
- ・山林に親しみ、林業に関心を抱いたり、木のぬくもりを木工教室から体験したりする。

●米作りや栽培学習から、地域の特産物を育てよう

- ・毎年、公民館の協力を得て、米作りを体験したり、地域の方々を講師に招き、さつまいも栽培、こんにゃく栽培したりすることで、収穫の喜びや生物・植物への関心を育てる。



(大宿川の水生物調査)

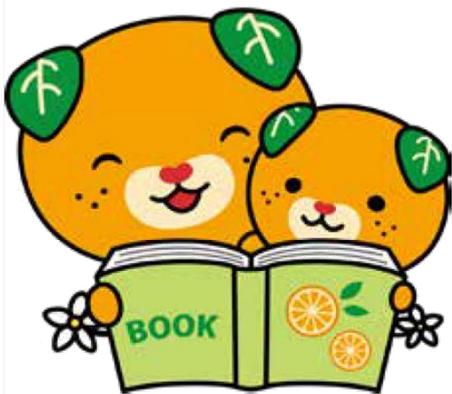
事業を実施して

【成果】

- 地域の方との交流から愛治地区住民に浸透している「愛人治心」の教えが、児童の健やかな成長の一助となった。
- 地域の方々の協力のお陰で、地域の良さに触れ、心温まる体験活動ができた。
- 総合的な学習の時間が充実し、日々の学習から生きる力が少しずつ培われ出したように感じる。

【課題】

- もっと地域の良さを発掘し、児童が「故郷愛治」と、胸を張って言える支援を行う。
- 地域と児童が、地産物を共に生産することで、収穫の喜びを今まで以上に体験し、共有させる。
- 地域の人口の減少と、地域住民の高齢化による、講師等の指導者の不足と高齢化に苦慮している。



えひめ未来塾



学習指導の様子

(四国中央市 新宮小中学校放課後わくわく教室)

①【四国中央市】新宮小中学校放課後わくわく教室	26
②【新居浜市】放課後まなび塾	27
③【西条市】小松地域未来塾	28
④【西予市】西予市学び舎事業	29
⑤【宇和島市】うわじま土曜塾	30

新宮小中学校放課後わくわく教室【四国中央市】

～山間部における子どもの学習支援～

◆活動の目的・理念

- 児童の学習習慣の定着と学力向上
- 児童一人一人の習熟度に応じた丁寧な学習指導の実施
- 多様な学習機会の提供による心豊かな健全育成

活動場所	新宮小中学校	対象児童・生徒	小学1年生～6年生	対象学校区名	新宮小中学校	
開催日数・曜日・時間等	平日(授業日)	146	日	毎週月～金曜日	15 : 00 ~ 18 : 00	
児童・生徒の平均参加人数	25	人/日	学習支援員	2	人/日 教員OB、地域住民ボランティア	
協働活動サポーターのべ人数	30	人	ALT(外国語指導助手)	ボランティアのべ人数	20	人
活動内容	宿題や復習の学習支援、学習習慣の育成、英会話や体力づくり・ものづくりなど学習機会の提供			参加者募集	各小学校を通じて案内文書を配布し、希望者を登録	

取組の概要

<主な取組内容>

● 宿題にじっくり取り組もう。

学校から提出された宿題を中心に学習に取り組んでいる。宿題で分からないところがあれば、教員OBの学習支援員が、児童一人一人に習熟度に応じた学習指導を丁寧に行っている。また、わくわく教室で準備したプリントなどにも取り組むことができ、学習支援員と相談しながら苦手なところを重点的に教えてもらうなど、個性や能力に応じたきめ細やかな指導が可能となっている。

● 英会話や体力づくりなど、多様な学習機会を提供。

学校の指導方針で小学1年生から英語に親しむ活動が行われていることから、ALTと連携し、高学年・低学年に分かれた英会話教室を週1回開催している。

また、講師の特技(専門性)を活かしたスポーツ教室も週2回開催して、陸上競技や球技など楽しく体を動かしながら体力と運動技術の向上を図っている。

● 学校や家庭との連携

毎月1回、学校と学習支援員と一緒に定例会を開催し、児童一人一人の学習の進捗度や特性を確認し、より良い学習指導・支援方法を毎回検討し、実施している。家庭には、毎月、児童の参加予定日を聞き、家庭でも学習機会を設けるようにしている。



(学習指導の様子)

児童の感想(学習意欲の向上)

- ・勉強で分からないところを教えてください。また、おもしろい先生や楽しい先生がいます。
- ・英会話教室では、楽しいゲームを考えてくれるので、英語が一番楽しいです。

<特色ある取組>

● 学校と連携した教員OBによるきめ細やかな学習指導

教員OBが学習支援員となり、学校との連携を密に行うことで、児童一人一人に合ったきめ細やかな学習指導を実施することが可能となっている。

例えば、学校と学習支援員が話し合い、課題を確認しながら学習の積み重ね・習慣化による成就感を高めようと宿題の量を調整することもある。

また、学習のみに限らず、さまざまな場面における児童の特性を十分に共有し、長所を伸ばせるよう、自己有用感につながる役割を与えるよう指導をしている。



(学校と学習指導員の定例会)

事業を実施して

【成果】

- 児童の学習に対する意欲向上が見られるようになり、学習の定着が図られるようになった。
- スポーツ指導では、異学年同士の交流もあり、縦のつながりを通じたコミュニケーション力や思いやりの心が育まれている。

【課題】

- 保護者などに家庭学習の重要性を理解してもらい家庭においても学習の習慣化を図りたい。
- 市の中心部から離れた山間部の学校で実施されているため、学習支援員の確保が難しい。

放課後まなび塾【新居浜市】

～学習習慣の定着と学力向上を目指して～

◆活動の目的・理念

- 社会の変化の中で放課後への多様なニーズに応える。
- 経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難である、学習習慣が十分に身に付いていないといった児童への地域と学校の連携・協働による学習支援を実施する。

活動場所	小学校・公民館	対象児童・生徒	小学4年生～6年生	対象学校区名	宮西小学校 他10校
開催日数・曜日・時間等	平日(授業日)	各160	日	月・火・木・金	16 : 00 ~ 18 : 00
				水	15 : 00 ~ 18 : 00
児童・生徒の平均参加人数	1か所40	人/日	学習支援員	1か所4	人/日 教員OB、教員免許所持者ほか
協働活動サポーターのべ人数	人		ボランティアのべ人数	人	
活動内容	宿題や予習・復習の学習支援、プリント教材、タブレットPCを使った個別学習			参加者募集	各小学校を通じて申込書を配布し、希望者を登録

取組の概要

<主な取組内容>

● 各校区ごとに実情に応じて実施

学習習慣の定着を図るために、ほとんどの校区で月曜日から金曜日の授業日は、毎日、まなび塾を開催。児童は、放課後の時間帯、小学校や公民館で安心して学習活動に取り組んでいる。

● 希望すれば誰でも参加できる

保護者の就労の有無等にかかわらず、小学4年生から6年生の児童は、希望すれば誰でも利用可。多くの児童が参加できるように、まなび塾の参加料は無料。

● 児童の自主的な学習を支援

児童の自主的な学習を支援し、分からない場合等に学習支援員が、サポート。学力強化シートなどにも取り組んでいる。

● 学校との連携

学校の先生が、まなび塾の様子を見に訪れ、学習支援員から児童の頑張っているところを聞いたり、その場で声かけなどをしたりして連携をしている。



(教室での学習の様子)

児童の感想

・難しいところをわかりやすく教えてくれたのがうれしかったです。

保護者の感想

・まなび塾に行き始めて、集中して勉強をする力が少しずつついてきたようだ。私が子ども頃にしてもらっていたように今でも地域の方々が関わってくださって感謝しています。

<特色ある取組>

● 放課後対策の充実

小学生の放課後の時間帯は、非常に大事な時間であり、新居浜市教育委員会では、児童の学習習慣の定着による学力向上を図る面だけでなく、放課後の安全安心な居場所づくり、共働き世帯への家庭支援、低所得世帯への経済的支援の側面など、放課後まなび塾の事業に多くの目的や意義を掲げている。

事業を実施して

【成果】

- まなび塾の利用により、児童の意欲の向上や学習習慣の定着が図られている。
- 学力向上面はすぐに結果が出るものではなくしばらく時間を要するものと考えている。

【課題】

- 学習支援員の確保に苦慮しており、全校区に設置できていない。
- 今後も学習支援の充実に向けて関係者との協力を進めたい。

小松地域未来塾【西条市】

～小松を担う子どもたちの未来のために～

◆活動の目的・理念

- 学習意欲や自己肯定感の向上を目指す。
- 故郷への愛着心の高揚を図る。
- 学習習慣の定着や学力の定着を図る。

活動場所	小松公民館	対象児童・生徒	小松中学校生徒	対象学校区名	小松中学校
開催日数・曜日・時間等	土・日・休業日等	5 日	夏季休業中の火～土	9 : 00 ~ 17 : 00	
児童・生徒の平均参加人数	23 人/日	学習支援員	6 人/日	教員OB、塾講師、大学生	
協働活動サポーターのべ人数	人		ボランティアのべ人数	71 人	婦人会員、PTA、高校生
活動内容	宿題や予習・復習の学習支援、学習習慣の育成、学習相談への対応		参加者募集	中学校を通じてチラシを配布し、希望者を登録	

取組の概要

<主な取組内容>

- **宿題にじっくり取り組む**
中学校の夏休みの宿題(英語・数学・国語)を中心に取り組む。分かりづらいところを講師に納得いくまで教えてもらう。
- **学校や家庭との連携**
学校を通じてアンケートや保護者への協力依頼文の配布・回収、参加申込書の配布・回収を行う。
- **地域や家庭への広報**
公民館だよりに小松地域未来塾の生徒募集記事及び開催状況を掲載
小松中学校だより「とうげ」に小松地域未来塾開催記事を掲載



(頑張れる自分へ！)

生徒の感想

- ・集中して取り組めた。数学の教え方がよく、すぐに理解できた。
- ・学習だけでなく、各高校の特色ある講座を体験することができ、進路の参考になった。
- ・林先生の講演「脳と心の教育メソッド～脳と心の仕組みを最大限に活かそう～」を聞いて、これからのレベルアップにつなげたいと思った。

<特色ある取組>

- **学力を身に付けるだけでなく、自己肯定感を高め、粘り強くやり続けることが自分の未来を変えるということに気付いてもらうことをねらいとしている。**
勉強が分からないだめな自分
⇒ 学習支援・励まし容認
⇒ 頑張れる自分を実感、達成感を味わえる。
⇒ やれば自分はできるんだ。！という自己肯定感が高まる。
⇒ 自分は一人ではない！応援してくれる人がいるという仲間意識
⇒ 粘り強くやり続けることが、自分の未来を変えるという気付き
- **地域と一体となった企画・運営**
5日間のプログラムの中に、地域未来塾をはじめ、郷土学習、市内の高校による高校生講座、創作体験教室、コンサート、講師を招聘した講座などを盛り込み、地域と一体となって企画、運営している。
- **大学との連携**
大学生による学習支援や進路相談の実施



(高校生講座による「多肉植物の寄せ植え」)

事業を実施して

【成果】

- 意欲的に学習した生徒は理解が深まり、学習の成果があがった。
- 学校やPTA、団体などの応援・支援があり、連携して実施できたことは素晴らしい。
- 普段学べないことも体験できる。
- 中学生にとっては宿題に集中できる場所であり、大学生にとっては、指導力を身に付けられる貴重な体験の場となる。

【課題】

- 真に勉強の仕方や内容が分からない生徒が来やすい場所にしていく工夫が必要である。
- 簡単でも達成感を感じる活動を取り入れる必要がある。
- レクリエーション的な体を動かすプログラムも必要である。

西予市学び舎事業【西予市】

～地域ぐるみで子どもの学びを支えよう～

◆活動の目的・理念

- 一人一人が目標を持って意欲的に学力向上をめざそうとする取組を支援する環境を提供する。
- 地域の方々の協力を得ながら、学力の底上げをめざす。
- 子どもの学びを支援する。

活動場所	公民館等	対象児童・生徒	小学3年生～6年生 (各学び舎に応じて)	対象学校区名	近隣の小学校
開催日数・曜日・時間等	土・日・休業日等	14～29 日	毎週土曜日	9 : 00 ~ 11 : 30	
児童・生徒の平均参加人数	25 人/日	学習支援員	13 人/日	教員OB	
協働活動サポーターのべ人数	586 人	教員OB等、地域の方	ボランティアのべ人数	人	
活動内容	宿題や予習・復習の学習支援、学習習慣の育成、学習相談への対応		参加者募集	各小学校を通じてチラシを配布し、希望者を登録	

取組の概要

<主な取組内容>

- **宿題にじっくり取り組もう**
落ち着いて学習できる環境で、集中して学習に取り組む。
- **目標をもって学習しよう**
開講時間内は利用可能。自分で学習時間を決めて学習に取り組む。
- **苦手を克服しよう**
授業で分かりにくかった所を指導者と一緒に学び、理解を深め、分かる楽しさを味わう。
宿題の分からない所を指導者とともに考え、苦手を克服し、達成感を味わう。
- **家庭学習の進め方を学ぼう**
「ながら勉強」から脱却し、集中して学習することにより、家庭学習のよい習慣を身に付ける。

児童の感想

- ・学び舎に行くと勉強をする気持ちになる。
- ・余りのあるわり算が少し分かっていなかったけど、教えてもらってよく分かった。
- ・図形の問題が分かるようになった。
- ・家では全然勉強をしていなかったけど、学び舎に通って勉強が楽しくなった。
- ・分からないところがあっても、すぐに聞けるからよく分かる。



(個に応じた学習支援)

<特色ある取組>

- **地域の先生に教えてもらおう!**
教員OBを中心とした地域の優しい先生と、ともに学ぶ子どもたちは、学び舎で学習することを楽しみにしているようである。また、指導者の先生は、教職を退かれたベテランの方や、学校で生活支援員を経験された方が、多く、指導の仕方がとても上手である。個に応じたきめ細やかな指導により、一人一人の学びをサポートしている。



(集中して学習に取り組む)

事業を実施して

【成果】

- 継続的に通う児童が増え、集中して学習に取り組めるようになってきた。
- 指導者の先生とのよいつながりができ、学ぶ楽しさや、できた喜びを感じているようである。

【課題】

- 学び舎を全校区に設置したいが、指導者の確保が難しく実現できていない。
- 利用人数が、少ない学び舎もある。学び舎のよさを家庭や地域に十分周知できていない。

うわじま土曜塾【宇和島市】

～ 将来に希望を持つ児童生徒を育てよう～

◆活動の目的・理念

- 勉強の遅れがちなお小中学生に対し、まずは自ら学習する習慣を身に付けてもらう。
- 基礎学力を身に付けることに重点を置いた、分かるための学習指導を行う。
- 教科以外の体験活動やレクリエーションの実施、また、地域行事への参加などを通して、情操の涵養を図る。

活動場所	市内5会場 (図書館・公民館)	対象児童・生徒	小学4年生～6年生 中学1年生～3年生	対象学校区名	市内全小中学校 (小学校28校、中学校6校)
開催日数・ 曜日・時間等	平日(授業日)	日	毎週土曜日(小学生)	9 : 00 ~ 12 : 00	
	土・日・休業日等	40 日	毎週土曜日(中学生)	13 : 00 ~ 16 : 00	
児童・生徒の 平均参加人数	1か所 25 人/日	学習支援員	1か所4 人/日	教員OB、塾講師	
協働活動サポ- ーターのべ人数	人		ボランティア のべ人数	人	
活動内容	・スタッフが選定した教材を活用しての学習支援 ・各種体験活動		参加者募集	各学校を通じてチラシを配布し、希望者を 登録(申込み多数の場合は書類選考有)	

取組の概要

<主な取組内容>

- **まずは学習する習慣を身に付けよう。**
土曜塾への参加者は、何らかの理由で勉強の遅れがちなお小中学生である。理由は様々であるが、学力向上の第一歩目は、机に向かう習慣を身に付けることであると考えている。
- **スタッフが選定した教材を活用しての学習支援**
学習の進度も様々な参加者に適した教材を活用している。
- **体験活動の充実**
土曜塾では、学習活動のみならず、地域行事への参加や各種体験活動を通して、地域の良さを再認識したり、将来の目標を持つきっかけづくりをしたりしている。



(それぞれのペースで...)



(学習方法も工夫(カルタを活用))



(スタッフの熱心な指導)



(個別学習で集中)

<特色ある取組>

- **定期的なスタッフ研修**
昨年度まで、大手家庭教師派遣会社に業務委託していた土曜塾は、今年度から市の直営事業となった。スタッフの多くは、今年度から新たに従事したことから、定期的に研修会を開催することにより、児童生徒への接し方や指導方法、また、教室相互の情報交換など、スタッフ間の意識統一に努めている。



(初回の研修会)

事業を実施して

【成果】

- 5か所ある教室ごとの判断で、学習形態を工夫(グループ形式や個別学習)することにより、参加者の特性に応じた支援が可能となっている。

【課題】

- 地域人材であるスタッフの拡充・育成に努めたい。
- デジタル教材導入の是非を検討する必要がある。